

日本映画放送株式会社 第54番組審議会議事録

1. 開催年月日：平成28年11月15日（火）16時～17時
2. 開催場所：東京都千代田区有楽町1-1-3 東京宝塚ビル15階
日本映画放送株式会社 ボーディングルーム
3. 委員の出席：委員総数 8名 / 出席委員数 8名
出席委員（順不同、敬称略）：菊地 実・鈴木 嘉一・川本 三郎・坂井 保之・
曾根 和子・田保橋 淳・鳥居 美砂・西 正

放送事業者側出席者：代表取締役社長	杉田 成道
編成制作局長	宮川 朋之
編成制作部長	澤 尚志
編成制作部	樋渡 典英
番審担当	堤 靖芳
	清水 明（記）

4. 議題（1）審議事項
時代劇専門チャンネル オリジナル時代劇
『池波正太郎時代劇スペシャル 顔』について

- （2）報告事項
日本映画専門チャンネル 『追悼 演出家・蜷川幸雄』について
『首領の道』シリーズについて

5. 議題（1）概要

本格時代劇をつくり続けてきた時代劇専門チャンネルが、新たに4K撮影によるオリジナル番組を制作し、時代劇に新たな地平を切り拓きました。原作は池波正太郎による短篇小说『顔』。初めての映像化となります。主演は『暴れん坊将軍』の時代劇スター・松平健。『鬼平外伝 正月四日の客』に続く時代劇専門チャンネル・オリジナル時代劇主演です。脚本は名手・金子成人。監督は北大路欣也主演版『剣客商売』など、テレビ時代劇で目覚ましい活躍を続ける山下智彦。ケーブルテレビ最大手J:COMとの初コラボ作品となりました。

【審議 POINT】

- 本作品は時代劇専門チャンネルのオリジナル時代劇として魅力的か。
- ケーブル局とオリジナル作品を初めてコラボ制作したことをどう評価するか。

6. 議題（1）審議内容

- ・大変良いドラマで感動した。予想外の展開はないが、江戸の男の義理人情が非常に上手く表現され、仮に映画館で見ても、スマホで見ても、誰にでも通じる傑作だと思う。4K撮影については、暗いシーンでも表情が良く見えた。
- ・池波小説と時代劇スター・松平健はファン待望の魅力的な組み合わせだ。しかし、過去の池波作品と比較して、主要キャスト三人に人間的色気が足りなく感じられ、多少物足りなかった。そうした中で、中村嘉葎雄が飄々と絵師を演じているのが印象的だった。
- ・池波正太郎の初映像化作品に取り組んだチャレンジ精神と、その重厚な出来上りを評価したい。ただ、女優陣の存在感が軽く、男優陣に拮抗できていない。また、ドラマ世界におけるリアリティのつくり方にも少々疑問を覚えた。
- ・俳優の演技も、ロケーション撮影や美術やCG合成も、全てが丁寧につくられた良作。善と悪の二つの顔を持つ男たちの複雑さや葛藤がもっと伝われば、更に良くなったと思う。
- ・松平健=暴れん坊将軍のイメージが強く、一種の悪役である今回の設定が個人的にはシククリとこなかった。しかし、過去のオリジナル時代劇は室内シーンが多かったのに対し、印象的なロケ風景がドラマに深みを与え、映画のような雰囲気があった。
- ・役者の顔ぶれと物語設定に期待して見た。ストーリーは定番で、もう少し伏線などがあったら良かったと思うが、理解しやすいストーリーで、私は楽しめた。
- ・4K撮影に着目して観た。絵師・伊川梅溪と出会うシーンで背景に南アルプスが見えるが、合成があまりの自然で大変驚いた。本当に良くできている。
- ・松平健は時代劇の所作や殺陣ができる貴重な俳優だと改めて感じた。J:COMと共同制作したのは将来を見据えた良い取り組み。今後資金力のある配信系などのプラットフォームと組み、新しいオリジナル番組を制作することを積極的に検討すべきだろう。

〈事業者回答〉

- ・視聴率も高く、視聴者からの作品評価も悪くなかった。また、メイキング番組を見て「撮影の裏側や俳優の取り組みが見られて良かった」という声も寄せられている。
- ・時代劇に人間的色気が必要だというのは全くその通りだ。丁寧につくられた作品だが、人間の内的な複雑さや葛藤により目を向けるべきだったかもしれない。この反省を今後オリジナルドラマを制作に生かしていきたい。

7. 議題（2）報告事項

(a) 日本映画専門チャンネル『追悼 演出家・蜷川幸雄』について

今年5月に逝去した演出家・蜷川幸雄の追悼企画を12月に三夜連続で放送する。作品は“世界のニナガワ”と呼ばれる出発点となった『王女メディア』、『マクベス』、『近松心中物語～それは恋～』。オリジナル解説番組では3作全てに主演した平幹二郎にインタビュー予定だったが、取材直前に急逝し、蜷川と平の二人を追悼する企画となった。

(b) 日本映画専門チャンネル『首領の道』シリーズについて

日本映画専門チャンネルでビデオストレート作品、所謂Vシネマも放送しているが、今般『首領の道』シリーズを放送することにした。本作は映倫等の審査機関を通過しておらず、また、パッケージ商品としては年齢制限を設けていない。弊社では放送する全作品を厳しく考査チェックしているが、本作については、第5作および第9作以降シリーズ完結編となる第15作まで、暴力描写や薬物使用に関する表現の激しさを勘案し、弊社指定(R-15)作品として、22時以降にペアレンタルロックをかけて放送することにした。

8. 連絡事項：次回番組審議委員会は、平成29年1月17日(火)15時より開催。